

発掘調査の概要

甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第177次調査）

甘樫丘は、飛鳥川の西岸に位置する標高145mほどの丘陵です。『日本書紀』には、皇極天皇3年(644)に蘇我蝦夷・入鹿の邸宅が営まれたことが記されています。

奈良文化財研究所はこれまで、丘陵東麓の谷の一つで継続的な調査をおこなってきました。その結果、7世紀前半から8世紀初頭にかけて、大規模な造成をともなう活発な土地利用がおこなわれていたこと、谷の入り口付近と奥とで土地利用の様相が異なっていたこと等があらかになっています。

今回の調査地は、継続調査をおこなってきた谷から北東に尾根を一つ越えた小さな谷、およびその西側の斜面と尾根の上です。調査区の面積は、あわせて1038㎡。調査は2012年12月に開始し、現在も継続中です。

尾根の上と斜面の調査区では、残念ながら古代の明瞭な遺構は確認できませんでした。谷部分では、調査区西部で緩斜面に広がる拳大～人頭大の石のまとまりが見つかりました。これらの石は古代のものと思われますが、詳細については、なお検討中です。また、調査区東南部では、谷の埋め立て土とみられる層が厚く堆積している様子を確認しました。かつては今よりも深い谷が、南東に向かって開いていたようです。

調査地は、近年まで果樹園として利用されていました。遙か古代には、果たしてどのように利用されていたのでしょうか。今後の展開にご期待ください。

(都城発掘調査部 桑田 訓也)



緩斜面に広がる石の集積（南西から）